

■人が人を育てる～受け継がれる学校事務職員の絆

広大な面積を要する北海道の中で、北海道公立小中学校学校事務職員協議会（全道協議会）は全道19の支部に分かれています。それぞれの支部では、全道協議会の活動とは別に、研修と親睦を主たる目的として活発に活動を行い、さらに支部内では、ブロックや地区割、市町村単位など小さな単位で活動を行っています。

広大な面積がゆえに、学校間の距離は離れていますが、事務職員同士の心の距離は極めて近く、同時に強くつながっています。その要因の一つはブロックや市町村などの小さな単位での研修活動にあります。

研修会の中で、よきお手本であり実践者であり、また相談相手でもある先輩事務職員に囲まれ、語り合い、そして刺激を受けながら、多くの事務職員は成長していきます。「人が人を育てる」行為が自然に芽生え、しかもしっかり根付いていることは、北海道の学校事務職員にとってかけがえない財産です。

「領域」が人と人を切り結ぶのであれば、当然事務職員同士もしっかりと結ばれてなくてはなりません。そして、組織も強くつながっていかねばならないのです。

採用間もない頃、同じ町の先輩事務職員の方々が私一人だけのために、わざわざ研修会を開催してくれました。

場所は町の教育委員会の会議室。9時から16時過ぎまで、教育委員会の課長の講話



〈イラスト〉村山悠子
(札幌市立元町中学校教諭)

に始まり、北海道の学校事務概論、サービスや給与・旅費・町経理事務についての実務研修など、4名の先輩事務職員が講師となり、詳しく説明してくれました。

午前中は何とか集中して聞いていた私でしたが、昼食をはさみ、午後の部になると強烈な睡魔に襲われました。あれは確か旅費の説明を受けていた最中でした。ほんの数秒でしたが私は寝てしまったのです。当時の私は引越しの疲れや、慣れない土地での生活、学校でのストレスなどでへとへとに疲れていたのです。私が一瞬でも寝てしまったことに、講師の先輩が気づいたかどうかは定かではありませんが、大変失礼なことをしてしまったと、今思い出しても申し訳ない気持ちで一杯になってしまいます。

正直なところ、この研修会で受けた説明が、当時の私にとってどれだけ役だったかは分かりません。しかし、先輩諸氏が忙しい中で作成してくれた資料の数々は、その後の私が仕事をすすめる上で、無くてはならない物となりました。そして10数年経った今でも、本棚に宝物として大切にしまっておりあります。

強烈な眠気の要因になった店屋物のカツ

井の味は、とおの昔に忘れてしまいました
が、私一人のためだけに一所懸命講師を務
めてくれた4名の先輩方に対する感謝の念
は、生涯忘れることは決して無いだろうと
思います。

昨年、私が所属する支部に十年ぶりに新
採用者があり、その方へ新採用当時の私と
照らし合わせながら、こんな手紙を差し出
しました。

『倉本さんへー学校事務職員に採用され
て半年が経ちましたが、どんな気持ちで毎
日を過ごしていますか。多かれ少なかれ、
職務上の悩みを抱えているなら、それは学
校事務職員なら誰もが抱えてきた、または
抱えている悩みです。決して倉本さんだけ
の悩みではありません。どうか安心して
ください。そして、この仕事を続けてい
く以上、つらいことや悲しいこと、時には
人に裏切られることもあるでしょう。これ
も、同じように誰もが経験してきたこと
です。でも、それ以上の感動や人との出会
いが「学校事務」という仕事を通じてある
と思います。困ったことや悩みがあれば、職
場の人たちに相談してみてください。ある
いは近隣の事務職員に相談してみてください。
きっと相談に乗ってくれますよ。それが
「組織」であり、「仲間」だと思います。
そう信じて、これから一緒にがんばりま
しょう！』

手紙を差し出した後にあることに気付
きました。この手紙の内容が、あの研修会
の時に、先輩事務職員に言われた言葉とそ
っくりだったのです。私が多くの人の手助け
や助言により育てられてきたように、倉本

さんも今後、多くの人達の支えにより、学
校事務職員として成長していくことでは
しょう。そして倉本さんもいずれ誰かを支える
ことになるのです。

北海道で脈々と受け継がれている学校事
務職員間の絆。決して目に見えることはあ
りませんが、こうして北海道の学校事務職
員はしっかりとつながっているのです。

■地域からの贈り物～学校事務 の可能性に気づいたあの日

3年間勤務した初任校との別れの日のこ
とです。その年の4月1日、学校の前で
「出発式」が行われ、大勢の人が集まりま
した。

私の他に、校長とベテラン教員2名の転
出者がいました。この面子からすると、私
など付録のようなものだと思っていま
した。おまけに遠く離れた学校への異動とい
うこともあり、誰一人として「栄転おめで
とう」とは口にせず、そんな気遣いに心底
恐縮していました。

「式」では地域の名士のあいさつが続
いた後、児童代表から素敵な花束をもらいま
した。転出者のあいさつでは、いつものよ
うに最後にあいさつをしました。それほど
感傷に浸ることもなく、淡々と済ませまし
た。

そして、「蛍の光」が流れる中、児童の
前を歩き、一人一人と握手をしました。み
んな笑顔で見送ってくれました。児童の次
ぎに保護者や地域の人たちが待っていま
した。その途中、「元気でがんばれよ！」と
両手でしっかり握手をしてくれた人がいま

した。農作業でささくれ立った手は一際ごつく、温かかったので、ふと顔を見上げると一。

新卒の3年間のことを思い返すと、「若い」という理由だけで任された野球少年団の指導を通じての児童との関わりや、学生気分が抜けきらない私に労働者意識を植え付けた教職員組合の活動を通じての教員との関わり、PTA業務や周年行事を通じての保護者との関わり、酔った勢いで加入してしまった地域の青年団活動を通じての地域との関わりなど、へき地小規模校ならではの、何物にも代え難い人との出会いがたくさんありました。

しかし、これら「人と人との結びつき」を肝心の学校事務に生かしたかということ、そうではありませんでした。もう少し要領よく行動し、柔軟に物事を考えることができなければと、今では冷静に考えられますが、何より「若かった」私は本当に不器用でした。

例えば、町の教育委員会に対する「予算要求活動」にそれらのネットワークを活用し、子どもたちをはじめとして、いろいろな人達の声を反映させることは可能であり、より説得力のある予算要求書づくりができたでしょう。また、多くの先輩事務職員が実践していた「保護者・地域向け事務だより」の発行を参考に情報発信を行い、ネットワークを利用すれば、より効果的に地域や保護者との情報の双方向化が実現し、学校事務にプラスに作用したことでしよう。

学校事務にとって重要なネットワークづ

くりを認識することができず、学校事務に生かせなかったことが今でも残念でなりません。

ふと顔を見上げると一。その人は泣いていました。その瞬間、それまでの緊張の糸がプツリと切れ、私の目からも涙が溢れました。「北野！泣くな！」と誰かが私の肩を抱きながら大声で言いました。周りのみんなが笑っています。でも、目には涙をうかべています。

ゆっくりと走り出した私の車を追いかけて、子どもたちが歩道を走っていました。車のミラーに映った彼らはいつまでも、いつまでも手を振っていました。

「小学校の事務職員は北野大地だ」とみんなが知っている素晴らしい地域だったことを、こんな別れの日に知るなんて……。彼らが流していた涙の価値と、自分がこの学校で行ってきた仕事。秤にかけることが失礼なくらい、自分が学校事務職員として、何もやってこなかったことを改めて気づかされました。

あの当時、学校事務を通じて、児童や保護者や地域との結びつきを強めることはできませんでした。しかし、自分が学校事務職員である以上、これからも素晴らしい人との出会いが繰り返されるであろうということ、そして「学校事務で人と人を結びつけることができる」ということを実感しながら、この学校でできなかったこと、やらなかったことをこれから実践することこそが、彼らへの償いになるのだと心に誓いました。今から十数年前の出来事です。

『情報というのは、われわれの実践、実践のなかにおける物の見方、考え方、それを取り出して一つの形にまとめたものが情報であって、そういう意味では、情報の底には、必ず実践と実践が切り結んでいく人間関係というものがあるわけです。情報のために情報があるのではなくて、当然、人間が実践を通して、いろいろな面体と切り結んでいくわけです。人と人がつながっていくわけです。この人と人をつなぐ一つの道具としてのDataというものがあるわけです。

皆さん方は、予算書を仕事の重要な内容としているわけですが、あの予算書というのは、予算のために予算書があるので、予算書のために予算があるのではない。予算書を作ることによって、人と人とのつながりというものが学校の中にできていく。

事務とは何か……ということをもう少し掘り下げれば、教育実践にまつわって、人間のつながりができていく、教育における人と人をつないでいく。その要（カナメ）になるのが、Dataであり Informationである。

学校における教育の運営というものを通して、いろいろな人たち……子どもたち、子どもと親たち、教師たち、それから子ども集団、親集団、さらに地域の住民……いろいろな人たちが広域にまつわっているわけであります。そういう教育を軸として考えられる人間の連帯というものを切り結んでいく、そういう組織活動の要が学校事務である。私は、学校事務をそのように考えなければならないのではないかと思います。』（1975年第25回全道事務研 持田栄一氏の講演より）

<参考文献>

- 第50回大会記念誌 北響（協議会誌 第5集）
／北海道公立小中学校事務職員協議会編（2000年）



北海道の運動会は6月がピークです